



## 日本史⑪ (古事記)

3月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2024年3月11日(月)

古事記全3巻は日本最古の歴史物語である。

稗田阿礼が天武天皇の勅により誦習した帝紀、及び先代の旧辞を太安万侶が元明天皇の勅により、撰録して712年(和銅5)に3巻の書物として献上した。

古事記の企画は、天武天皇(在位672~686年)によると言われている。天皇は、当時諸家に伝わっていた帝紀と本辞とに誤謬が多くなりこれを正して後世に伝えようとしていた。

上巻は天地開闢から、中巻は神武天皇から、下巻は仁徳天皇から推古天皇までの記事が収めてある。

神話・伝説と多数の歌謡とを含みながら、天皇を中心とする日本の統一の由来を物語っている。

上巻の神話は、皇室の起源を説き、主権者を天照大神の直系に限ると定めたものであり、これは壬申の乱を平定した「英雄」天武天皇の裁断を反映したものと考えられる。

中巻は、神武天皇が神駿によって危機を脱し、崇神天皇が三輪山を祀り、垂仁天皇が伊勢大神に斎宮を派遣し、倭建命が伊勢大神の神威を破り、神功皇后が神がかりするなど、天皇治政の物語は神の支援による帝王の大事業の基礎である。

下巻は、「倭の五王」の時代以降である歴史的叙述への関心はほとんどなく、仁、徳、愛、武、智を持つ、有徳の天皇による帝王の大事業を叙述する。

推古天皇までが蘇我氏の勢力下にあった「古」の時代であり、天武天皇の父舒明天皇から新しい「今」の時代が始まったとする考えに基づく。

参考：(日本史史料集 山川出版社、日本通史 复旦大学出版社)